

2017.11.13

HVMA report

獣医師（4年目） 宍倉拓

2017年10月末、私にとって2回目の海外研修を行う機会に恵まれました。特に今回はアメリカの整形外科専門医でいらっしゃる Dr. Brian Beale, Dr. Don Hulse による整形外科のドライラボを受講させて頂き大変感銘を受けました。そこで得られた知識・経験ならびに諸先生方から受けた刺激を、今後の診療や院内環境にどう生かしてゆくかを乱筆ながらしたためたいと存じます。

ハワイ獣医師会年次大会（以下 HVMA）はその名の通りハワイ獣医師会主催の学術大会であり、アメリカ本国の著名な専門医を招いて講義を行う点が特徴的です。大学所属の教員以外にプライベートプラクティスの専門医が数多く講師として招聘されており、米国における専門医の層の厚さをまざまざと感じました。アメリカの獣医療をモデルケースとして日本の獣医療を考えたとき、獣医師教育のあり方や VT の活躍できる範囲の差異などにあまりに大きな隔たりがあります。加藤院長が推し進めている北海道大学と CSU を中心とした専門医教育（AVMA スタANDARD）の重要性を改めて感じ、我々若い獣医師も世界レベルの医療を実践するために尽力しなければならないとの思いを新たにしました。

講義を受けた感想としましては、昨年の IVECCS に引き続き、VT 向け講義の充実や参加する VT の意識、専門性の高さにやはり驚かされました。プロフェッショナルとして責任とやりがいを感じて研鑽に励む姿勢に、医療人としてあるべき姿を見、大きく刺激を受けました。獣医師向け講義にも多くの VT が参加し、活発な質問をされていました。エマージェンシーに関する講義で聞いた「呼吸困難の猫に対する胸腔穿刺」や「ショックドーズでの水和」についての内容は、先日行った院内フィードバックセミナーで全員と共有し、また日々の診療

(特に夜間救急) で実践しております。また、VT として HVMA に参加した澤本さんからスケーリングに関するフィードバックセミナーを受け、本日もスケーリング勉強中の VT に最新の情報をもとに指導致しました。このように、海外学会で得た最新の医療を確実に日々の診察に反映することが大切だと感じております。

Dr. Brian Beale, Dr. Don Hulse による整形外科実習では、前後肢帯の骨折に関する座学と実習をあわせて受講しました。理論を学んだ後に即実習を行うことができたため、不得手としている整形外科でしたが興味を持って高い習熟度を得ることができたのではと思っております。模型を用いた整復実習では高価なインプラントを実際に用いての練習ができ、とても良い経験となりました。今後も国内外のドライラボ、ウェットラボに参加できる機会がありましたら積極的に申請し、自身のスキルアップと院内へのフィードバックに努めたいと考えております。

最後になりますが、今回は貴重な機会を与えていただき本当にありがとうございました。得られた学びを生かし、より良い医療を HANB の理念に則って提供することを目標に、チームとしての質、個々の役割を再度見直して参ります。このような機会にまたお声かけ頂けるよう精進を続けたいと存じます。